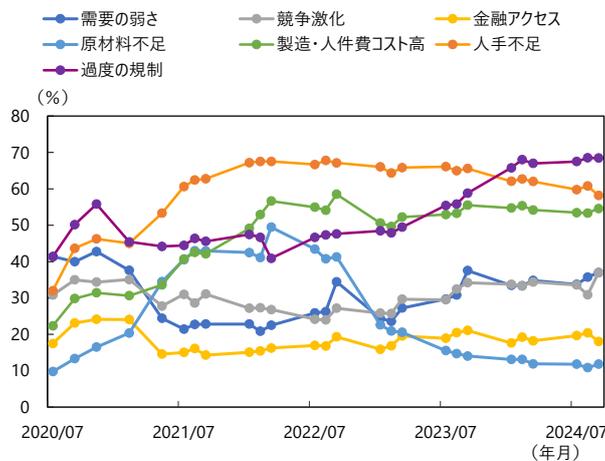


コラム2 ドイツ経済が抱える構造問題

欧州では従来、国際的に競争力の高い製造業を有するドイツが経済の牽引役となってきた。しかし、このところ、むしろドイツは低成長が目立っている。本コラムでは、ドイツ経済が低迷している要因について、構造的な問題を含め確認する。

ドイツ経済低迷の大きな背景としては、主要な輸出先である中国経済の成長鈍化やロシアによるウクライナ侵略以降のエネルギーコストの上昇が指摘されている。この点に関連して、企業が直面する課題を尋ねたブンデスバンク（ドイツの中央銀行）の調査結果を見ると、「需要の弱さ」は緩やかに上昇しているものの、そこまで強く意識されている訳ではない。これに対し、「製造・人件費コスト高」や「人手不足」を挙げる企業は多いほか、「過度の規制」を挙げる企業が大きく増加している様子が見取れる（コラム第2-1図）。

コラム第2-1図 ブンデスバンクによるドイツ企業の課題意識調査



備考1：調査対象企業（約9,000社）に対し、向こう6か月内に見込まれる課題とその程度を5段階で尋ね「課題あり」と回答した企業の割合。

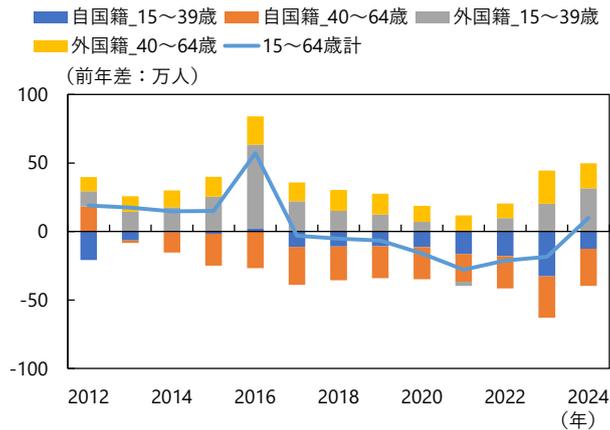
備考2：調査は毎月行われるものではなく、近年では、1月、2月、3月、7月、8月、9月に行われている。図表では実施された調査結果のみを線で結んでいる。

資料：ブンデスバンク「Survey of firms (BOP-F)」から作成。

そこで、まず人手不足の状況を見るため、ドイツの労働力人口（15～64歳）を、若年層（15～39歳）と熟練労働力とされる中高年層（40～64歳）に分け、さらにそれぞれをドイツ国籍と外国籍に分解して確認する（コラム第2-2図）。

これを見ると、ドイツで団塊の世代の退職が始まった2014年頃からドイツ国籍の中高年層の人口が減少しているほか、少子化傾向もあってドイツ国籍の若年層も2017年以降は減少を続けている。この間、外国籍労働者は一貫して増加を続けているが、やや細かく見ると、中東やアフリカから欧州への難民が急増した2015年やウクライナ情勢が悪化した2022年の翌年に顕著な増加が見られることから、かなり多くの難民が含まれていると考えられる。難民の中には高い労働意欲を持ち、高度な技能を有する人材も含まれるが、現場を支えてきたドイツ国籍の中高年層が減少したことによる影響を相殺することは難しく、結果的に企業の人手不足感につながっているものと見られる。

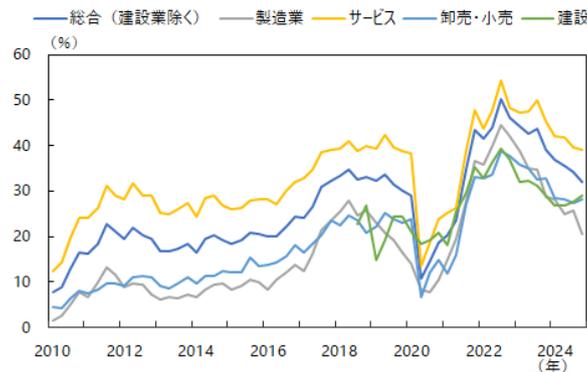
コラム第2-2図 ドイツの労働力人口の推移



備考：各年1月1日時点の人口。
 資料：Eurostat から作成。

実際、別のアンケート調査を見ると、熟練労働力の不足で影響を受けていると回答した企業の割合は、2016年頃から上昇を始めていたことが分かる。なお、足下にかけてはコロナ禍当初の急低下やその後のかなり急激な上昇を経て、低下に向かっているが、引き続きコロナ禍前と同程度の高い水準にある(コラム第2-3図)。

コラム第2-3図 熟練労働力不足の影響を受けるドイツ企業の割合

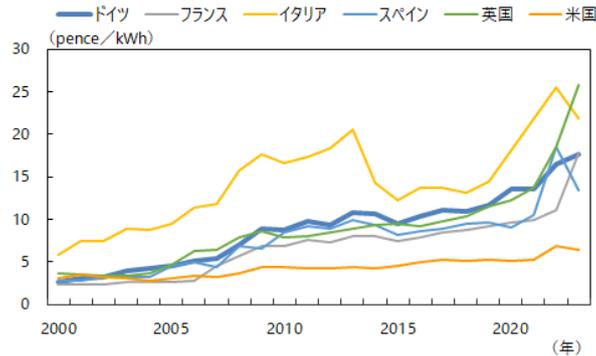


備考：四半期ベース。建設のデータは2018年第3四半期から。アンケートの対象は、民間企業約9,000社(銀行及び保険業を除く。うち約7,500社は中小企業)。
 資料：ドイツ復興金融公庫(KfW)「KfW-ifo Skilled Labour Barometer」から作成。

同アンケートのセクター別の回答を見ると、運輸・交通や宿泊・飲食といった労働集約的なサービス業で、熟練労働者の不足が強く認識されていることが多い。こうしたサービス産業における人手不足感の強さを背景に、ドイツでは、景気低迷下でもサービス部門の物価の高止まりで消費者物価が下がりづらい状況が見られている。

次に、製造コストの上昇との関係で産業用電力コストについて確認する。ドイツの産業用電力価格の推移を見ると、一貫して上昇しているものの、欧州の他の主要国や英国と比べドイツの電力価格が突出して高いわけではない。ただ、米国と比べると価格の乖離が大きく広がる姿となっている(コラム第2-4図)。

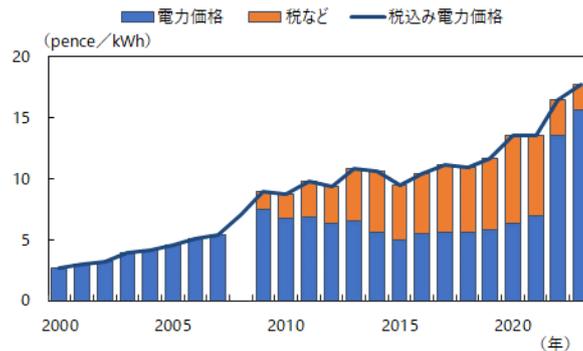
コラム第 2-4 図 欧米諸国の産業用電力価格



備考：IEA データを基とするポンド建てデータ。税等を含む。イタリアの 2020 年及び 2021 年のデータは欠損値。
 資料：GOV.UK「International industrial energy prices」から作成。

ドイツの場合、2010 年代に見られた米国との電力価格の乖離は主に再生可能エネルギー法に基づく賦課金（EEG 賦課金）によるものだったと見られる。その後、EEG 賦課金は 2022 年央に廃止されたが、2022 年以降はウクライナ情勢の悪化によりパイプライン経由でのロシア産天然ガスの供給が減少した。代わって米国やカタールからの液化天然ガス（LNG）調達が増え、輸送や保管のコストも上昇した結果、電力価格そのものが大幅に上昇している（コラム第 2-5 図）。

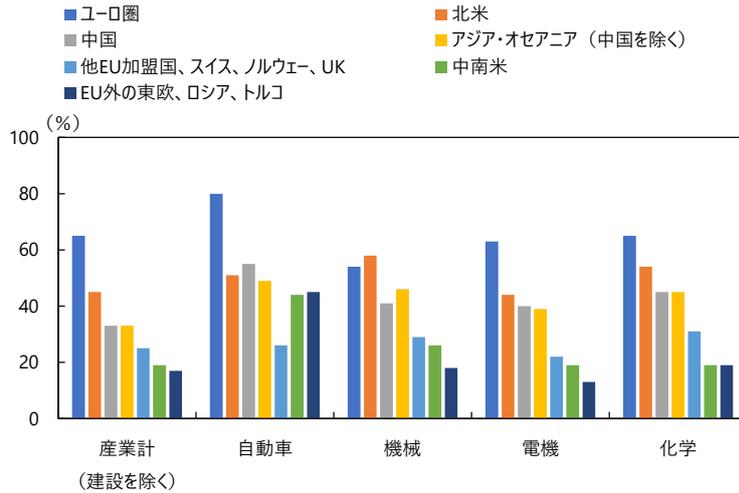
コラム第 2-5 図 ドイツの産業用電力価格（電力・税別）



備考：IEA データを基とする英ポンド建て価格。2008 年は欠損値。直近は 2023 年。
 資料：GOV.UK から作成。

ここまで確認してきた人材不足や製造・人件費コスト増を背景に、ドイツ企業が国外に移転する志向を強めている。ドイツ商工会議所連合会（DIHK）の 2024 年の調査によると、投資先候補地（複数回答可）は、産業計では、他のユーロ圏という回答が首位、次いで北米が挙げられている。北米については、中国への過度の依存を低減させる動き（デリスキング）に加え、エネルギー価格の低さや米国の一連の産業誘致策が企業の関心の高さにつながったものと考えられる。また中国は 3 位とはいえ、依然 3 割強の企業が進出を検討している。とりわけ自動車は、これまで中国市場への進出に熱心だったことに加え、電気自動車への移行を進める上で既に高い競争力を有する中国メーカーとの協業の必要性を強く認識していることから、引き続き中国に高い関心を持ち続けているものと考えられる（コラム第 2-6 図）。

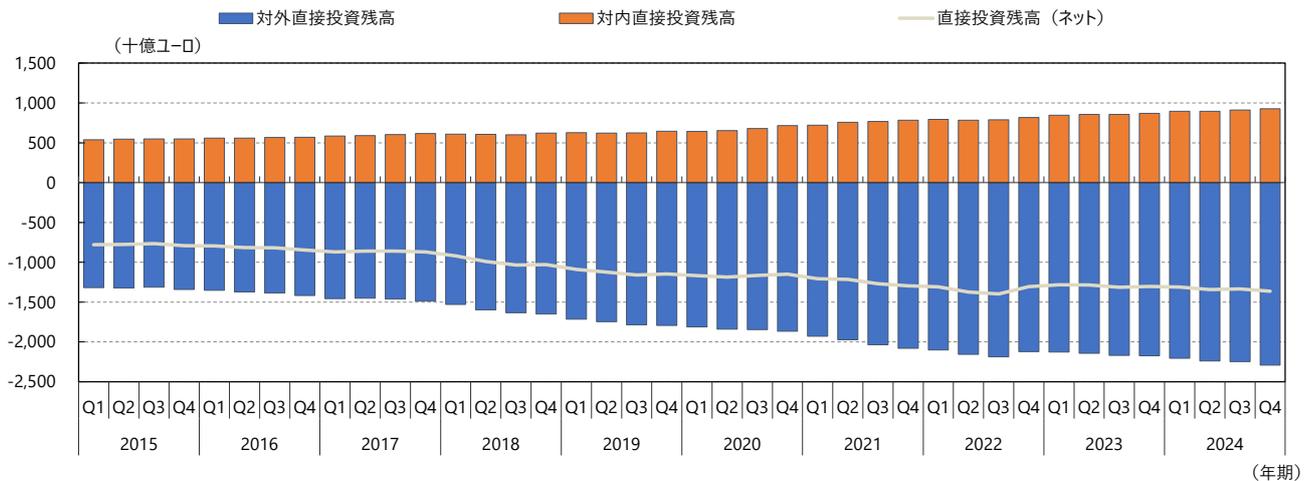
コラム第 2-6 図 ドイツ製造業の産業別海外移転候補地（2024 年）



資料：ドイツ商工会議所連合会（DIHK）「Foreign Investments of Manufacturing Companies 2024」から作成。

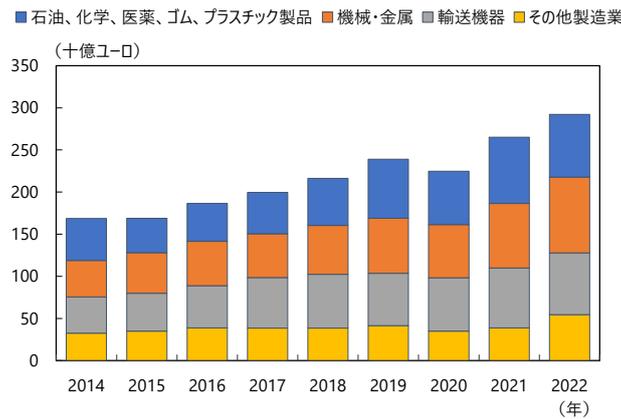
対外・対内直接投資残高の推移を見ると、既に対外直接投資残高は大きく伸びており、今後もこうした動きは加速する可能性がある（コラム第 2-7 図）。製造業の対外直接投資残高の大半は、輸送機器及び機械・金属、石油、化学、医薬関連といったドイツの主力産業だ。これらの産業のさらなる海外移転に伴う空洞化への不安も実体経済への下押し要因となりつつある（コラム第 2-8 図）。

コラム第 2-7 図 ドイツの対外・対内直接投資残高の推移



備考：全業種。Equity Capital のみ。対外直接投資残高は正負を反転して表示。
 資料：ドイツ中央銀行、CEIC database から作成。

コラム第 2-8 図 ドイツ製造業の対外直接投資残高



資料：OECD、CEIC database から作成。

最後に「過度の規制」への懸念の高まりについて触れると、複雑な法規制や行政手続の煩雑さ、硬直的な官僚主義が経済の活力を削ぐとの批判は、ドイツでは目新しいものではなく、1990年代から歴代の政権が幾度もその打破を掲げてきた。2020年以降の懸念の高まりは、基本的には政府の新型コロナウイルス感染症対策やその後の社会・経済政策運営に対する批判の表れと見ることができると言える。2023年夏にも当時の連立政権は、経済対策の一環として、行政上の諸手続の簡素化やデジタル化などの措置を規定する法律を打ち出した。しかし、連立内の主張の違いからドイツ独自の債務抑制策（「債務ブレーキ²³」）の緩和には踏み込まず、経済や与党支持率の低迷ひいては「過度の規制」への懸念の上昇は続いた。

なお、2025年2月に行われた連邦議会選挙で第1党となったキリスト教民主・社会同盟（CDU・CSU）も、公約における経済政策の一つとして行政手続の簡素化など官僚主義の軽減を訴えていた。また、選挙後の「債務ブレーキ」緩和の動きは早かった。「債務ブレーキ」は、憲法にあたる「基本法」に定められた条項のため改正には議会の3分の2以上の賛成が必要だが、ウクライナ情勢を巡る軍事費拡大の議論もあり、審議は新議会招集前に始まり、3月中旬には上下院で可決された。同時に可決された5,000億ユーロのインフラ基金創設と併せ一定の景気浮揚効果が見込まれる一方、財政規律の緩和は有権者の中で賛否が分かれ、選挙後にCDU/CSUの支持層の一部がドイツのための選択肢（AfD）に流れる一因となっていると見られる。AfDが第2位の席を占める新議会では各種政策で議論が紛糾する可能性もあり、「過度の規制」への懸念は高止まりする可能性もある。

²³ ドイツでは財政赤字の拡大を抑えるため、憲法にあたる基本法で平時の財政赤字をGDPの0.35%までと定めている。2009年に当時のメルケル政権で制度化され、2016年から運用が開始された。自然災害や非常事態の発生時に、議会の過半数の賛成が得られれば一時的にこの上限を緩めることは認められており、コロナ禍やウクライナ情勢悪化の際に適用されている。